

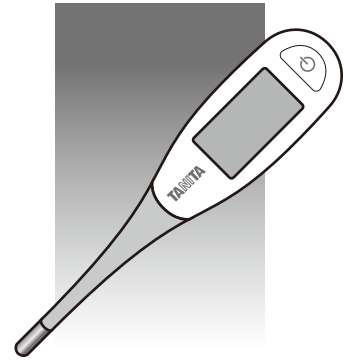
## 取扱説明書

保証書付

タニタ電子体温計BT-47X

わき専用

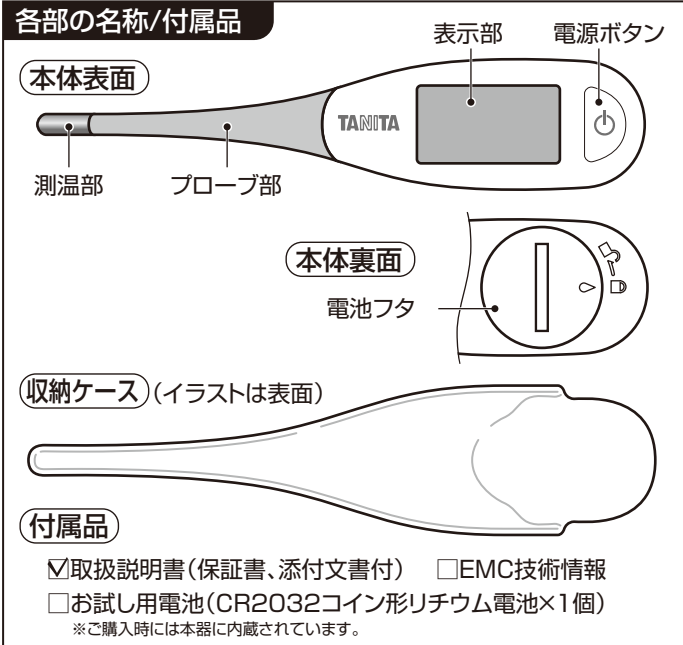
## BT-470 / BT-471



※本書に記載されているイラストはイメージ図です。

### お願い

誤った使いかたをしますと、重大な事故につながるおそれがあります。この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用ください。また、必要な時にはすぐに取り出せるよう、身近に大切に保管してください。



### 正確な測定のために

- ・本器を正しく部位に当てて測定しないと精度の高い測定値が得られない場合があります。
- ・体温測定は同一部位で一定時間行ってください。
- ・運動や入浴、食事の後、約30分間は測定を避けてください。
- ・使用環境温度が10℃を下回るときや、40℃を超えるときは、正確に測定できないことがあるため、10℃～40℃の環境内で使用してください。

### 安全上のご注意

ご使用になる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、安全に関する重要な内容を記載しています。ここに示す内容をよくお読みいただき、本器を正しくご使用ください。

<b>警告</b>	この表示の欄は「死亡または重傷 <sup>※1</sup> を負うおそれのある」内容です。
<b>注意</b>	この表示の欄は「傷害 <sup>※2</sup> を負うおそれまたは物的損害 <sup>※3</sup> が発生するおそれのある」内容です。
<b>禁止</b>	してはいけない「禁止」内容です。
<b>必ず守る</b>	「必ず守っていただく」内容です。

※1: 重傷とは失明やけが、やけど(高温・低温)、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの、および治療に入院・長期の通院を要するものをさします。  
 ※2: 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが、やけど・感電などをさします。  
 ※3: 物的損害とは、家屋・家財などへの拡大損害をさします。

### お願い

本器を最良の状態を保つために守っていただきたい内容です。

### お知らせ

本器の使用・点検に関連して、お客様に知っていただきたい補足事項です。

### 警告

- ご使用前およびご使用中に本器に異常が確認されたら使用しないでください。異常があるままご使用になると、けがをするおそれや正確に測定できないおそれがあります。
- 人の体温測定以外に使用しないでください。破損や故障、けがのおそれがあります。
- 本器はわき専用の体温計です。それ以外(口中や耳など)で使用しないでください。正しく測定できません。また口中や耳などを傷つけるおそれがあります。
- 測定結果の自己診断や治療は危険です。医師の指導に従ってください。自己診断は、病気の悪化につながるおそれがあります。
- 電池は取り扱いを誤ると破裂し、けがをするおそれがあります。充電したり、分解したり、火に入れたりしないでください。
- お子様の手の届かないところに保管してください。また、お子様だけで使わせしないでください。特に、電池などにご注意ください。誤飲やけがのおそれがあります。飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
- 電池は乳幼児の手の届かないところに置かないでください。誤飲のおそれがあります。電池を飲み込んだ場合には直ちに医師にご相談ください。

**●毒性等に関するお問い合わせ先** 真夜中など、お近くの医師に相談できない場合は、下記へ電話して指示を受けてください。  
 (公財)日本中毒情報センター「中毒110番」 大阪072-727-2499 受付時間365日・24時間

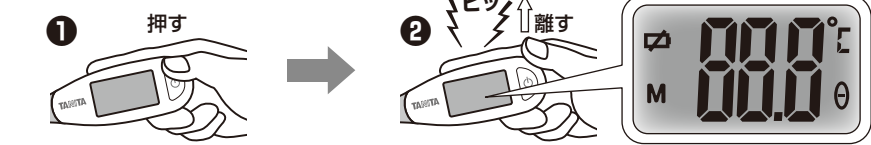
- 電池は、⊕/⊖を間違えないように交換してください。液漏れ、発熱、破裂などをおこし、けがや破損のおそれがあります。
- 指定の電池(CR2032)以外は使用しないでください。液漏れ、発熱、破裂などをおこし、けがや破損のおそれがあります。
- 電池の液が目に入った場合は、すぐに多量のきれいな水で洗い流してください。失明などのおそれがあります。必ず、医師の治療を受けてください。
- 電池の液が皮膚や衣服に付着した場合は、すぐに多量のきれいな水で洗い流してください。けがなどのおそれがあります。

### 注意

- 分解・修理・改造・再調整はしないでください。正確に測定できないおそれがあります。
- 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障するおそれがあります。
- 通信機能付きの機器、電磁波を発生する家電製品、および強力な電磁波のある環境では使用しないでください。本器が誤動作して電池寿命に影響を及ぼすおそれや、正確に測定できないおそれがあります。電子レンジやワイヤレス通信機器、および電線、発電所、電波塔などから可能な限り遠くに離れてご使用ください。
- MRI検査室内に持ち込まないでください。MRI装置への吸着や、本器が発熱するおそれがあります。
- 病原菌に感染するおそれがありますので、ご使用後は測温部をティッシュなどで拭くか、アルコールを含ませた脱脂綿などで消毒してください。その際、表示部にアルコールがかからないように注意してください。

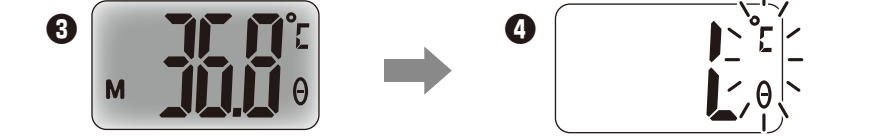
### 体温のはかりかた

#### 1 測定の準備



本器を収納ケースから取り出し、電源ボタンを押してください。

電源ボタンから指を離すと「ピッ」とブザーが鳴り、表示部が全点灯してバックライトが点灯します。

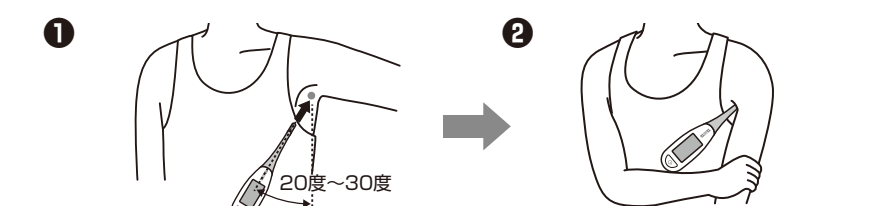


前回の検温結果が表示されます。  
**M**: 前回測定値であることを示します。  
**θ**: 予測値であることを示します。



バックライトが消灯し、「E」が表示されて「θ」と予測マーク「θ」が点滅したら 測定準備完了です。

#### 2 予測検温の開始



わきの下の汗をよく拭き、わきの中央に本器の先を下から押し当てます。

本器を下から押し上げるようにして、わきをしっかりとめ、本器が動かないよう軽く腕をおさえます。

#### 3 予測検温の終了

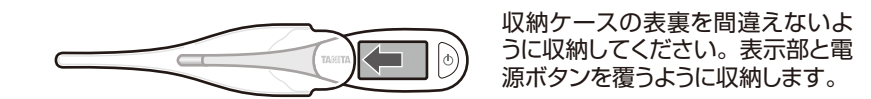
約20秒後に「ピー」と5回ブザーが鳴り、予測検温が終了します。バックライトと「E」、予測マーク「θ」が点灯し、測定結果が表示されます。(本器のはさみかたや検温時の条件などにより、測定時間が短縮したり延長したりする場合がありますが、ブザーが鳴るまではさみ続けてください)

#### 実測検温する場合

予測検温終了後に本器をわきから外さないでください。予測検温開始から約3分後に「ピッ」とブザーが鳴り、実測検温に切り替わります。予測検温開始から約10分後に「ピー」と5回ブザーが鳴り、実測検温が終了します。バックライトと「E」が点灯し、測定結果が表示されます。

#### 4 電源を切る

電源ボタンを押すと「ピッ」とブザーが鳴り電源が切れます。収納ケースに入れて保管してください。電源を切り忘れても、検温終了から約3分後に自動で電源が切れます(オートパワーオフ機能)。



### 測定のしくみ

わきはある程度外気に触れているため、体の内部と同じ位の温度(平衡温)になるには、わきをしっかりと閉じて約10分かかります。本器は検温開始からの温度変化を演算することで10分後の平衡温を予測します。予測検温終了後、そのままはかり続けると約3分後に予測マーク(θ)が消え実測検温に切り替わります。検温開始から約10分後に「ピー」と5回ブザーが鳴り、バックライトが点灯し実測検温の終了をお知らせします。より正確な検温が必要な場合は実測検温をしてください。

**お知らせ**  
 電源が入りにくいときは、電源ボタンを少し深めに押してから指を離してください。

**お知らせ**  
 測温部が32℃以上の場合、Lではなく数字が表示されることがあります。その場合は測温部を冷やしてから電源を入れ直してください。

**お願い**  
 必ず「E」が表示されたことを確認してから測温部をわきの下に接触させてください。正しく予測検温ができないおそれがあります。

**お知らせ**  
 ごくまれに測温部のステンレスでアレルギー症状の出る場合があります。そのような症状があらわれた場合には、すみやかに使用を中止し、医師にご相談ください。



**お知らせ**  
 予測検温の終了後、本器をわきから外すと実測検温に切り替わりません。

**お知らせ**  
 続けて測定する場合は一度電源を切り、1分以上間隔をあけてから測定し直してください。

